

家庭教育力の強化を図る

学校・地域と連携し、家庭教育力向上を図るPTA活動

稲沢市立法立小学校PTA

1 はじめに

本校は、天下の奇祭として有名な「国府宮はだか祭」で知られる稲沢市にある。稲沢市は、濃尾平野のほぼ中央、名古屋市の西側に位置し、明治6年創設の本校は、稲沢市南西の平和町にある。法立小学校区には、名古屋城築城のために木材を運んだときの労働歌「木遣音頭」が伝承されており、毎年、4年生児童が地域の「木遣音頭保存会」から学び、伝統を受け継いでいる。他にも「ふれあい会議」「同窓会」「歴代PTA会長会」など地域の会があり、子どもたちは地域に見守られながら成長している。全校184名、特別支援学級を含めた9学級の小規模校である。

2 研究への取組

家庭教育力の強化を図ることは、子どもたちや保護者・地域・学校にとって重要である。そのために、PTAが主体となって家庭の教育力そのものを高めることや学校の教育活動や地域と連携した取組を進めることが必要であると考えた。令和2・3年度は、コロナ禍であったが、活動方法や内容を工夫して、実践に取り組んだ。



【法立小学校の校舎】

3 実践活動の概要

(1) PTA発信の取組

- ① 子どもの成長・安全を願って
ア 読み聞かせ

成人委員会では、1～3年生に、読み聞かせ活動を行っている。読み聞かせ講習会で、本の持ち方や声の出し方、ページのめくり方などを学び、年に6回、朝の時間帯に各クラスで読み聞かせをしている。読んでいる途中に、子どもたちのさまざまな反応があり、本に引きつけられている様子が伝わってくる。子どもたちは、読み聞かせをきっかけに図書室で本を借りたり、読書に



【読み聞かせの様子】

親しんだりしている。また、令和2年度は、保護者が学校の中に入る貴重な場ともなり、学校や子どもたちの様子を知る機会になった。

イ 交通安全しおりづくり

校外委員会では、毎年、交通安全のしおりづくりを行っている。子どもたちから保護者に向けてメッセージを書いてもらい、それにラミネートをかけたりシールを貼ったりして、しおりにしている。子ども自身から保護者に手渡すことで、保護者の交通安全の意識を高めるとともに、子ども自身も交通安全に気を付けることができる。



【メッセージが入ったしおり】

ウ 交通立ち番

稲沢市では「セーフティプラスワン」事業により、集団登校だけでなく、下校も低学年を6限終了まで学校にとめおき、一斉下校をしている。毎週月曜日は、委員会やクラブ活動があるため、低・中学年だけの下校となるので、保護者が交代で下校の旗当番をしている。令和2年度は、4月5月の臨時休業により夏期休業中の7月8月も授業日となり、猛暑の中の登下校には、多くの保護者から心配の声があった。PTA会長、副会長、母親代表、各委員長が意見を出し合い、「子どもたちの安全・安心」のスローガンのもと、毎日、保護者で付き添い、見守りをするようになった。新しい生活様式や猛暑に疲労を感じる子どもたちにとって大変有効な支援となった。



【保護者による下校の見守り】

② 保護者の力量向上

ア 文化的研修会

成人委員会が中心となり、研修会の内容や講師の選定を行い、研修会を行っている。令和元年度までは、餃子づくり、和菓子づくりなど試食できるものが中心であったが、コロナ対策のため飲食す



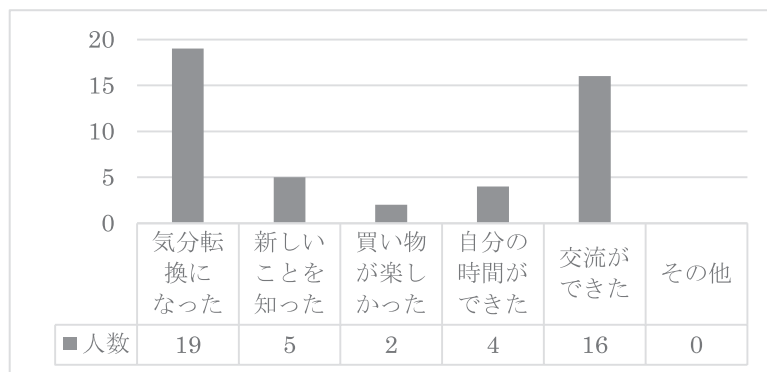
【間隔をあけ、マスク着用でヨガ】

ることを避けて、令和2年度は「リフレッシュヨガ教室」を開催した。体育館を会場とし、密にならないように間隔を空けてヨガに取り組んだ。また、研修会後には、体育館の消毒等も、三役、成人委員会が中心となって行った。保護者自身の教育力向上や親睦を図ることができ、参加者からは大変満足の声が寄せられた。

イ 社会見学

厚生委員会が中心となり、社会見学の計画や実施を行っている。稲沢市バスを利用して行き、実費で参加できるようにしている。行き先の選考や内容等、厚生委員が話し合いを重ねて決めているので、保護者に好評な活動である。行ったことがない場所での見学や体験などで、1日楽しめたという感想が多く、明日からの子育てのエネルギーとなったという意見もあった。令和2年度からは、感染対策のため、参加人数をバスの定員の半分までとしたり、長時間バスに乗らないようにしたりと工夫を行った。また、

バスへの乗車時の検温やアルコールでの手指消毒を行い、できる限りの感染対策をとったので、参加した保護者も、コロナ禍での息抜きになったようである。



【社会見学 アンケート結果】

ウ 家庭教育情報誌回覧

令和元年度より、愛知県教育振興会の家庭教育情報誌を各クラス3冊ずつ購入し、家庭に回覧して子育ての悩みを解決するヒントや情報を得る機会にしている。また、子どもとともに読むことで、子どもと接する時間をつくったり、同じ思いを共有したりする場にもなっている。令和2年度「子とともにゆう&ゆう4月号」には、本校の木遣音頭が「唄い、伝える地域の『音頭』」として掲載された。これをきっかけに、一層この情



【本校の様子を伝える記事】

報誌に関心が寄せられるようになった。

(2) 学校教育と連携した取組

① 親子講演会への参加

令和元年度に道德教育の充実の一つとして、親子講演会が行われた。林ともみさんを講師として「いのちの授業 ～幸せのカタチ。～」の演題で、子どもたちと保護者が一緒になって話を聞いた。講演後には、各クラスで話し合う様子を保護者は参観し、子どもたちの思いを知ることができた。親子講演会の内容をもとに家庭でも話し合いをもつなど、学校での教育を家庭でも共有することができた。

② 学校保健委員会への参加

令和2年度より、第1回学校保健委員会に保護者も参加できるようになった。「プペットークからペップトークへ」というテーマで鈴木孝さんのお話を聞き、実際に体験を交えながら、人を傷つける言葉（プペットーク）から、自分を認め笑顔になれる言葉（ペップトーク）に変えることを学んだ。



【児童と保護者が体験する様子】

保健委員会が中心となり、子どもたちはペップトークを広める活動を進め、全校で取り組むことができた。また、第2回学校保健委員会では、その内容を全PTA委員にも伝え、保護者にも活動内容を伝えることができた。

(3) 地域と連携した取組（サンドアート）

稲沢市を流れる木曾川沿いにあるサリオパークでは、毎年、稲沢サンドフェスタが開催され、多くの砂像がつくられる。そのサンドアートの楽しさを校区に住む講師から6年生が学び、砂像造りを行っている。令和3年度は保護者も参加し、砂像の土台準備や子どもたちの補助、片付けまで行った。初めてサンドアートを間近で体験した保護者も多く、子どもとともに新たな学びを楽しんで行う様子が見られた。



【サンドアートの様子】

4 おわりに

コロナ禍となり、子どもたちにとって、家庭が大切な生活の基盤であることが一層明確になった。家庭教育力向上のために、今後も、本校PTAが長年にわたり家庭・学校・地域と連携しながら行ってきたことを受け継ぎ、社会の変化や時代に応じたPTA活動を継続していきたい。